

文化情報のデジタル・アーカイブの実践的研究【4】

— デジタル・アーカイブ手法における沖縄の社会科地域素材の教材化 —

A practical study of a digital archive of culture information[IV]

岸本春海*¹／米須智子*²／二ノ宮のり*³／久世均*⁴／齋藤陽子*⁵

中央教育審議会答申（平成20年1月）では、「国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること」とされ、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことが述べられている。これを受け、学校教育基本法の改正と、学習指導要領の改定がなされ、その達成すべき教育の目標の中に、明確に伝統・文化を尊重する態度を養うことが示された。また、全教育課程を通して、特に道徳教育や各教科等において、我が国や郷土の伝統や文化を受け止め、それを継承・発展させるための教育を充実させるとされている。

ここでは、このような地域の伝統文化に関する教育を支援するための地域資料のデジタル・アーカイブにおける地域情報の構造化と教材化について「沖縄の石嶺地域」を例にして研究をしたので報告する。

<キーワード>

デジタル・アーカイブ、地域資料、伝統文化、文化遺伝子

1. はじめに

伝統文化は、歴史のなかで常に同時代性ある文化として現在まで継承されてきた。それはそれぞれの地域の発展と成長とともにその形を創造的に変え、今日に継承されてきている。今回取り上げた沖縄地域文化も同様に、沖縄という地域の発展と共に創造的に変化しながら今日に継承されてきた伝統文化である。

従って、この研究は「沖縄」の歴史的な文化遺産をデジタル・アーカイブしたのではなく、『伝統の先端にいる現在において生活している人が創造している文化』をデジタル・アーカイブしたものであり、地域における地域文化の伝承をみたものである。そしてこのような地域文化こそが、支援されていくべきものではないかと考える。

しかし、地域の伝統文化を伝承するためには、伝統文化は地域や生活と密着した文化であるが故に、単なる資金助成だけでは伝統文化には必ずしも良い効果を生むとは限らない。伝統文化における創造と発展、これがそれぞれの地域の個性ある文化の創造であり、地域

の創造、活性化の源である。全国のなかでも比較的伝統文化が豊かに継承されている沖縄地域の地域文化が、それらを同時代性ある活動として活性化していくことで、多様で豊かな社会を創りあげることが期待される。

また、本学がそのような地域社会を形成していく活動に対して、適切な形で協働していけるとすれば、それは非常に大きな意義を持つものである。

また、このことが沖縄の魅力の再発見と地域資源の発掘を行い、地域として継承していくべき文化や地域資源を地域として再評価するとともに、受け継ぐべき文化や地域資源の発展的継承方法や活用方法を検討し、地域の活性化につなげることができる。

2. 地域文化情報と学習指導要領

歴史・祭り・文化資源等が現在にまで残り、受け継がれているのには理由があり、受け継ぎ、守り育てるために様々な努力（取り組み）がなされている。

このように「伝統文化」が地域住民の中で

論文受理日：平成23年9月23日

*1 KISHIMOTO Harumi *2 YONESHUTomoko *3 NINOMIYA Nori *4 KUZE Hitoshi *5 SAITO Youko : 岐阜女子大学

共有できている地域においては、時代が変わり、社会システムが変貌しようとも、今後とも個性ある人づくり、地域づくりが継続できるものであると考えられる。更には、伝統文化を持った人々により地域づくりが行われていくことは、これからの持続可能な社会の形成、豊かな人の感性や作法を生み出すばかりではなく、地域コミュニティの再生・活性化、観光や新産業といった地域振興にも大きく寄与できるものである。

地域の伝統文化による地域づくりを進めるには、まず、地域住民に地域の伝統文化を周知し、共通認識として確立することが必要である。また、住民の行動範囲が拡大し自らが情報収集できる時代にあつて、インターネットなど多様な情報媒体による多種多様な情報が錯綜している中、住民の関心・興味を引き出すような情報発信能力を向上することが重要である。さらに、地域の伝統文化は、幼少の頃から、お年寄りまで多くの世代で共有することが重要であるため、その世代に応じたコンテンツも用意することが望まれる。

また、地域の伝統文化による地域づくりを実践するためには、取り組み主体から情報を発信するだけではなく、今後の展開を検討する上では地域住民の意見や他地域の情報を収集することが不可欠である。

一方、新学習指導要領では、伝統・文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国の国際社会の平和と発展に寄与することのできる児童生徒の育成のために内容の充実を行ったとされている。このようなことから、小学校における伝統・文化の教育が必要であることが明らかである。今回、地域の伝統・文化を教えていく教科として、社会科に着目してみた。新学習指導要領小学校社会科の目標では次のようである。

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

今回の学習指導要領で改訂においても、小学校社会科においては、「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て」と教科目標の中

に、これまでの日本を理解していくことが挙げられている。その中で、日本特有の伝統・文化を受け継ぎ新しい文化を築き上げ、より良い社会にしていくことを重視していると考えられる。

3. 地域の文化遺伝子の抽出

地域情報は地域の財産であり、地域で活動する住民にとっても、過去と未来をつなぐ知の集積として記録され、活用され、発信される価値を持つものである。それらが、地域のコミュニティをより豊かにし、新たに人と人、人と地域をつなぐ触媒として地域に輝きをもたらす。ここでは特に、地域資料を通じて地域の文化遺伝子を再発見するものとして実施した。

地域の文化遺伝子（ミーム（meme））とは、文化を形成する様々な情報であり、人々の間で心から心へと伝達や複製をされる情報の基本単位を表す概念で、動物行動学者、進化生物学者であるリチャード・ドーキンスが、1976年に *The Selfish Gene*（邦題『利己的な遺伝子』）という本の中で作られたものである。

各々の地域では、有史以来、経験し、蓄積してきた多くの歴史的事象が存在する。その中でも、地域の人々により、時には労力を出し、資金を出し、精神を発揮して、これら歴史的な事象を、祭りをはじめ、民俗芸能、遺構、伝承、あるいは町並みなどとして、大切に守り育て、受け継いできているものがある。

このように数ある地域の歴史的な事象の中で、地域の人々によって受け継ぎ、守り育てられてきた「地域固有の精神文化」こそ「文化遺伝子」である。

そこで、様々な地域文化のうち、（主に明治期以前から）長い年月を経て、守り受け継がれてきている「地域固有の精神文化」に着目し、これを「文化遺伝子」と定義した。

ここで、文化遺伝子の基本情報を次のように構成する。

(1) 主題となる資料

(例) 主となる文化財の映像の収集（撮影）
資料の構成（例：獅子舞、踊り方）

(2) 歴史的背景

(例) 主題の歴史的背景について調べ教材化、（例：首里城、エイサー、伝えられた背景状況、歴史的資料など）

(3) 地域の人々の話

(例) 地域の人々の思い、専門家の研究等の記録 (例: オーラルヒストリー)

(4) 関連資料

(例) 他の関連文化財 (活動), 説明資料など

地域の歴史・祭り・文化資源等が現在にまで残り、受け継がれているのには理由があり、受け継ぎ、守り育てるために様々な努力 (取り組み) がなされている。

このように「文化遺伝子」が地域住民の中で共有できている地域においては、時代が変わり、社会システムが変貌しようとも、今後とも個性ある人づくり、地域づくりが継続できるものであると考えられる。更には、地域の文化遺伝子を持った人々により地域づくりが行われていくことは、これからの持続可能な社会の形成、豊かな人の感性や作法を生み出すばかりではなく、地域コミュニティの再生・活性化、観光や新産業といった地域振興にも大きく寄与できるものである。

4. 地域情報の構造化

地域情報は地域の財産であり、地域で活動する多様な主体にとっても、過去と未来をつなぐ知の集積として記録され、活用され、発信される価値を持つものである。それらが、地域のコミュニティをより豊かにし、新たに人と人、人と地域をつなぐ、触媒として地域に輝きをもたらす。このために地域情報の基本となる地域資料のデジタル・アーカイブを行った。

沖縄地域文化資料 (活動) のデジタル・アーカイブの基本構成として、次の4つのカテゴリーに分けてアーカイブした。

(1) 生活文化 (衣・食・住)

①先人・教え

- ・地域ゆかりの偉人の業績や教え。
- ・歴史上の人物のゆかりの地であること。
- ・地域ゆかりの組織 (例えば地域の歴史文化を継承する人々など)。
- ・歴史上の人物個人ではなく、これら人物を多数輩出してきた地であること。

②地域文化

- ・地域独自の生活文化を現在まで受け継いでいること。
- ・地域の長い間受け継がれてきた教えを

現在まで受け継いでいること。

- ・歌 (和歌や俳句、連歌など) が多数読まれた地であることや、これら文化に関連の深い地であること。

(2) 伝統文化

①出来事・発祥

- ・歴史のターニングポイントとなるような出来事が起こった地であること、またはその出来事に由来する史跡等が存在すること。
- ・文化的な事項 (音楽など) の発祥の地であること。

②拠点・要衝

- ・各時代における地域の中心・拠点として繁栄した地であったこと。
- ・交通や物流の要衝として繁栄した地であったこと。

③町並み・史跡

- ・歴史的な建造物や構造物、町並みが残っている、またはこれら資源を守り受け継いでいること。
- ・歴史上価値の高い史跡を有している、またはこれら史跡を多く有していること。

④伝統芸能・祭り

- ・風俗慣習や祭礼行事、民俗芸能を現代まで継承していること。

⑤神話・伝説

- ・日本創生の神話や諸伝説にかかわる地であること、またはその神話・伝説に係わる史跡等が存在すること。

(3) 自然

- ・地域の自然
- ・沖縄の自然の風景や風物

(4) 産業 (伝統工芸・観光業・農業・公共施設など)

- ・日本を代表する産業や伝統工芸が興った地であること。
- ・近代産業の中心地であること。

この地域情報を基に、先に示した地域の文化遺伝子の各基本情報 (メタ情報) をまとめることが必要となる。

そのために、文化遺伝子の基本情報を記入する基本情報シートを作成し、静止画や動画情報とともに記録、管理することにした。


調査項目	那覇バス 石嶺営業所
位置情報	緯度 経度
調査内容 (①②は小学校3・4年生が分かる言葉で表記。③は教師が参考にすることを想定。)	
① 歴史	・石嶺のバス営業所で、ここから石嶺地区にバスが運行されます。
② 特色	種類：
③ 関連資料 (本やWeb)	

表1 基本情報調査票

5. 地域資料のデータベース

特定の地域資料のデジタル・アーカイブを行うためには、岐阜女子大学で提案している表1の地域資料データベース記録項目を基準としてメタ情報を作成することが重要である。

地域資料デジタル・アーカイブを行う場合、地域の地図などを利用しての位置情報に関するデータは重要である。また、新しい町づくりが行われたときに、新しい町の区画整理された場合に、地域資料に対しての戸籍を残していくことが大切である。その資料が「どこで」撮影されたか、またはどこに存在しているのか、つまり場所という領域を示している。このように、地域資料を記録するためには、いくつかの領域に従って纏めるべきである。

この視点で、地域資料の記録に必要な領域として、「何を」「どこで」「いつ」「どのような方法で」「だれが」「許可」(を得て撮影記録したか)、を取り上げ、設定した。これら各領

域に属する情報を記録することにより、後世への地域の記録の継承、今後の地域教育活動、伝統文化学習、さらに提示資料の開発や共有を行うなど、適切な地域資料の利用に供することができる。

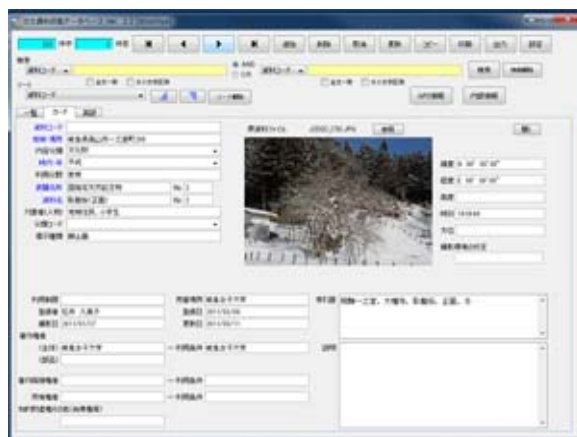


図1 沖縄地域データベース

そこで、地域資料を記録するデータベースの記録項目にあたっては、これらの視点で整備し、次のような記録項目の検討を行い、試案を作成している

(a) 「何を」・・・内容

タイトル(表題名称, 提示資料名), 内容分類, キーワード(索引語), 説明など, 資料の内容にかかわる情報があてはまる。

(b) 「どこで」・・・場所

地域資料のデジタル・アーカイブにおいて、特に重要であると考え、主として取り上げた位置情報カテゴリにあたる領域である。緯度、経度、高度、方向、地図および地名、施設名などを示す。緯度、経度、標高についてはGPSのデータを利用するため、GPSのデータを記録する際にその精度と関連して必要とされる、地球上の位置を座標で表す前提条件である[測地系]を項目として追加した。

(c) 「いつ」・・・日時

対象となる地域資料の記録の撮影年月日、時刻の項目を示す。必要に応じてGPSのデータを利用する。

(d) 「どのような方法」

地域資料の撮影記録の方法や撮影の状況などの記録項目を示す。とくに、位置情報の記録としては、対象となる資料を撮影したデータを「撮影データ」、撮影している状況を撮影したデータを「撮影状況データ」とした。また、それらの位置関係を示す図(地図など)も

位置付けた。

その他、周囲の様子を記録した 360° 全方位撮影や多方向映像などを併せて記録するとよい。

(e) 「だれが」

撮影に関わる機関名または撮影者、データの登録者などを示

(f) 「許可」

著作権，所有権，プライバシーなどの権利をもつ団体，個人などを示し，さらに，利用に関する許諾の有無を示す。

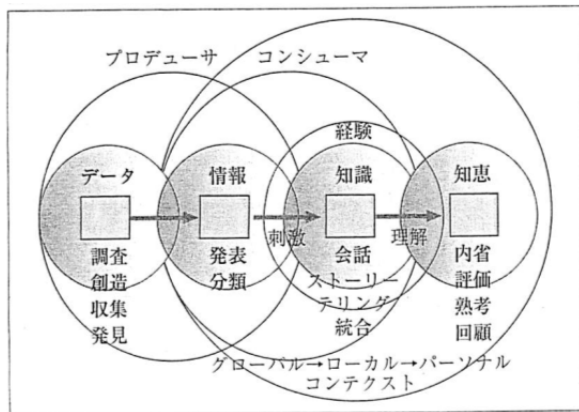


図2 理解の外観

6. 遠隔交流学习

現在、情報化・国際化の変化により今まで受け継がれてきた伝統・文化が失われつつある。この失われつつある伝統・文化を継承していく必要がある。そのためには、今後の日本を背負っていく子どもたちが伝統・文化を継承し、子どもたち自らが伝統・文化を創り出していく心を育む教育が必要となる。継承して創造していくためには、表現する力が必要とされる。他地域と伝統・文化についてお互いに地域の伝統・文化を発表し、交流する機会を設けることで、自分たちの地域の伝統・文化について知るだけでなく、他地域の伝統・文化について知ることによって、自分たちの地域の伝統・文化の良さや異文化の違いについて知ることができる。また、伝統・文化について知ることによって、愛着をもつことができ、子どもたちは後世に伝統・文化を継承しようとすると考えた。

ネイサン・シェドロフは、人間がデータを得て、どのように理解し、知識や知恵に変えていくのかといった流れを、図2のように「理解の外観」として表している。「人間は五感で得たデータを、それまでに有したさまざまな知識や経験を用いて情

報として取り込み、それをさらに構成していくことにより、構造化された知識、さらには知恵にまで高めていく」と述べている。

また、知識を深化する場合、発表又は会話が重要であると指摘している

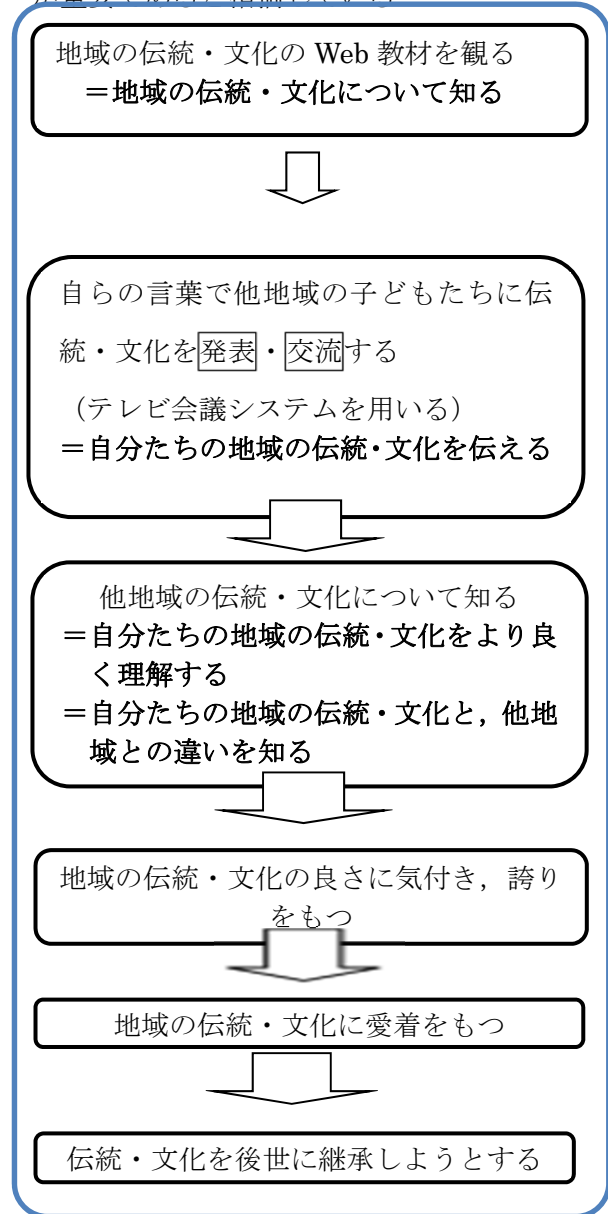


図3 遠隔交流学习

そのことから、地域の子どもたちに自分の言葉で、他地域の子どもたちに伝統・文化を伝え、また、他地域の子どもから、他地域の伝統・文化について教えてもらうという、自分

表1 地域資料データベース記録項目

2008. 6. 10 案作成

項目		項目	
1	資料コード	32	* 利用メモ
2	E 地域・場所(地名等)	33	* HP アドレス
3	E 内容分類	34	著作権者(団体)
4	E 時代・年	35	著作権許諾
5	利用分野	36	著作権管理者(団体)
6	E 表題名称	37	所有権者(団体)
7	表題名称内 NO	38	所有権許諾
8	E 資料名	39	肖像権者
9	資料名内 NO	40	肖像権許諾
10	対象者(人物)	41	プライバシー(個人情報)
11	E 索引語	42	活用条件
12	E 説明	43	利用制限
13	撮影データ/画像(原資料 File)	44	所蔵場所
14	撮影データ/位置(緯度, 経度, 高度)	45	登録者
15	撮影データ/時刻	46	撮影日
16	撮影データ/方向	47	登録日
17	地図・位置関係図	48	更新日
18	測地系	49	* 記録方式
19	* 撮影状況データ/画像(原資料 File2)	50	* 容量
20	* 撮影状況データ/位置(緯度, 経度, 標高)	51	* 原資料メモ
21	* 撮影状況データ/時刻	52	* メモ 1
22	* 撮影状況データ/方向	53	* メモ 2
23	大分類		
24	分類コード		
25	関連資料		
26	提示種類		
27	処理方法		
28	* 原資料の情報		
29	* 利用料金		
30	* 紹介施設		
31	* 資料評価		

*は内部情報 Eは英語訳等
網掛が追加箇所

たちの伝統・文化について交流し合うことを考案した。

そして、「発表や会話」を地域の伝統・文化の教育において重視する授業を考案した。授業中で、1 単位時間もしくは、1 単元の中で「発表や会話」をする時と場を設定し、子どもたちの地域の伝統・文化への理解を深化を図っていくことが必要である。

今後は、図3の流れにもとづいて実際に授業の実践を行う。そこで、子どもたちが伝統・文化についてどのような考えをもつことができたか、授業を評価し改善して、より良い授業デザインを考え

ていくことが、今後の課題である。

7. おわりに

デジタル・アーカイブは、文化財、文化活動を美しい映像や資料で後世に残すことも必要であるが、現実を正しく後世に残すことが最も重要である。また、これらのデジタル・アーカイブ化された映像を使った“知”の伝承サイクルにより新しい文化の創造へ発展をさせる機能を持つ必要がある。

地域教材と遠隔交流学习についての計画について報告した。